

学校教育目標

自ら考え行動し しなやかな心で

なかまと共に力を高め合う子の育成

めざす学校像

- ・ 一人一人が認められ、安心して生活できる学校
- ・ 勉強がわかり、活動が楽しい学校
- ・ 児童も教職員も、毎日生き生きと過ごせる学校

めざす教職員像

- ・ 自ら考え、自ら行動する教職員
- ・ しなやかさをもって同僚と協働し、よりよい学校づくりを目指す教職員
- ・ 子どものため、地域のため、学校のために一生懸命に取り組む教職員
- ・ 自分も他者も大切にする教職員

めざす子ども像

- ・ 自ら考え、自ら行動する子ども
- 【考える子】
- ・ 多様な他者と協働し、互いの力を高め合う子ども
- 【協力する子】
- ・ 最後まで粘り強く取り組む子ども
- 【がんばる子】

<児童の実態>

- ・ 素直で、指示されたことにまじめに取り組む。
- ・ 比較的学力が高い。
- ・ よいことも悪いことにも流されやすい。
- ・ 自分から進んで考えたり、考えたことを実行したりする力が弱い。
- ・ 自分の思いや考えをうまく表現しにくい。
- ・ 体力・運動能力に課題がある。

学校経営方針

現代は予測困難の時代だと言われている。そのような時代にあっても、様々な状況に対応し、明るい未来社会を切り拓いて生きていくことが求められている。そのためには、児童自らが主体的に考え、主体的に行動する力をつけさせていくことが必要である。また、現代は多様性の時代（ダイバーシティ）であると言われている。自らを律しながら、しなやかさをもって多様な他者と共に学び合う力を児童につけさせていくことも必要である。そして何より、何事にも最後まであきらめずに取り組み、自らの力を高めていくことが大切である。それらのために、児童が主体的に取り組み、達成感・充実感を得られ

る学習活動や学校教育活動を展開し、一人ひとりの児童が認められて、誰もが生き生きと過ごせる学校づくりを、教職員一丸となり、家庭・地域と共に、徹底して行う。

○「一人一人が認められ、安心して生活できる学校」

教職員は全ての教育活動を通して、お互いを認め合い、多様性を尊重する人権教育を徹底し、社会性を育て、いじめや暴力を絶対に許さない学校づくりを行う。また、「自己存在の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」といった「生徒指導の実践上の4つの視点」を生かした教育活動を行い、すべての児童が自己実現でき、主体的に生きていけるよう教育活動を行う。さらに、児童や保護者、同僚、地域などからの要望や依頼にスピード感をもって応え、連携し、信頼される学校づくりを行う。

○「勉強がわかり、活動が楽しい学校」

教職員は学習時間の確保、授業の質的向上に全力で取り組むとともに、先の見通しをもって自ら考え自ら学ぶなど、児童が主体的に取り組み、達成感・充実感のある学習活動や行事の工夫を行う。

○「児童も教職員も、毎日生き生きと過ごせる学校」

教職員は日々研修に努め、相互に連携したり支え合ったり学び合ったりする同僚性を高め、活気あふれた学校運営組織の確立をめざす。また、様々な取組について「児童」と「教職員」の両面から内容を見つめ、児童へ力をつけさせながらも、教職員自身の生き方を大切にする持続可能な取組を、組織的に行っていけるようにする。



そのような学校づくりを進めるにあたっての めざす教職員像

- ・ **自ら考え、自ら行動する教職員**
【主体的に動き、学校を動かす】
- ・ **しなやかさをもって同僚と協働し、よりよい学校づくりを目指す教職員**
【同僚性を高めると共に、様々な意見をすりあわせ、よりよい取組を生み出す】
- ・ **子どものため、地域のため、学校のために一生懸命に取り組む教職員**
【シンプルに、スピーディーに、丁寧に、一生懸命業務に取り組む】
- ・ **自分も他者も大事にする教職員**
【他者を尊重するとともに自分の生活も大切にする。個性を尊重しながらも持続可能な取組を実践する。】



めざす子ども像

- ・ **自ら考え、自ら行動する子ども**
【考える子】
- ・ **多様な他者と協働し、互いの力を高め合う子ども**
【協力する子】
- ・ **最後まで粘り強く取り組む子ども**
【がんばる子】

今年度の取組の重点

○朱三校教育 Check Action Term (2年計画)

2年計画で現在の様々な取組を見直し、児童と教職員にとってよりよい、持続可能な取組に整理していく。そして、働き方改革を確実に進めていく。

- ・校時表の見直し
- ・行事や取組の整理
- ・部活動の整理
- ・会議・研修のスリム化
- ・部会の整理
- ・セット時刻の厳守 等

○主体的・対話的で深い学びを重視した授業の実践

<育成したい資質・能力>

- ・各教科等の「見方・考え方」を働かせ、深い学びに向けて、他者と自分のおもいや考えを表現し、**対話する力**
- ・他者と協働しながら、根拠をもって筋道立てて考え、**課題を解決する力**

- ・学びの質を高め、学ぶ楽しさ、わかる喜びが実現できる授業展開の工夫
- ・基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用能力の育成
- ・「言語活動」を充実させ、「対話する力」を育成するための意図的・効果的な話し合い活動（ペア、グループ、集団等）の設定
- ・学習課題（めあて・目標）に応じた「まとめ」「振り返り」の徹底を通じた思考力・判断力・表現力の育成と学びに向かう力の育成
- ・「指導と評価の一体化」の充実
- ・GIGA スクール構想のもと、ICT 機器のさらなる活用をすすめ、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる。
- ・高学年での教科担任制の推進
- ・総合的な学習の時間の指導計画の見直し・再構築

○校内研究活動の推進

- ・本校の児童の実態を踏まえ、今年度の研究教科を「体育科」とし、児童の体力・運動能力の向上はもとより、ICT 機器等を活用し、対話する力、課題解決力、実行力、思考力などを高める研究を進める（詳細については後日）。
- ・研究主任、体育主任、体育部、学力向上主任等の連携・協働による研究体制の構築

○生徒指導の充実

- ・「生徒指導の実践上の4つの視点」（「自己存在の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」）を生かした、「支える生徒指導」の推進
- ・チームとして推進する組織的な生徒指導

○社会に開かれた教育課程の推進

- ・ 目指す資質・能力を明確にしたカリキュラム・マネジメントの推進
- ・ 「児童を地域全体で育てていく」ため、学校・保護者・地域・学校運営協議会・PTA活動との連携・協働
- ・ 地域の教育力を生かした学習の展開
- ・ ビオトープの活用

○新型コロナウイルス等の感染症拡大対策を踏まえた学校教育活動の見直し、継続

- ・ 「新しい生活様式」を踏まえた学校の行動基準の下、組織的・計画的な安全管理
- ・ 現状に見合った感染対策の実施
- ・ 健康管理の徹底

○働き方改革の推進

- ・ 取組内容・行事等の精選
- ・ セット時刻の徹底

確かな学力

（１）すべての児童が基礎的・基本的な知識・技能を習得

- ①日々の授業の充実・スキルタイム・朝読書

（２）学びの質を高める

- ①探究活動を通した、主体的・対話的で深い学びの実現
- ②総合的な学習の時間の再編成
- ③ICT 機器の活用による「情報活用能力」の育成

（３）自学自習の習慣化

- ①日々の授業と家庭学習の連動を通した自学自習の習慣化
- ②系統立てた家庭学習
- ③学力に結び付く効果的な取組 デジタルドリルの活用
- ④ICT 機器や自主学習ノートを活用した予習・復習等、計画的な取組の実行
- ⑤やるべき学習は「やらせきる」指導

（４）実践的英語力の育成 英語活動・外国語活動・外国語

- ①専科指導、ALT との協力指導等効果的な指導の構築
- ②系統立てた言語活動の充実 聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと

（５）「困り」を抱える子ども一人一人に対する支援

- ①個別の指導計画の活用
- ②総合育成支援員、SC、SSW（兼務）の効果的な活用

（６）G I G A 端末等の I C T 機器を活用した教育の推進

- ①情報活用能力アドバイスシート等による発達段階に応じた系統性の確保

（７）発達段階に応じた切れ目のない読書活動の促進に向けた支援

- ①読書活動の充実による学習の基盤となる言語能力の育成、新たな知見や価値との出会いの創出
- ②読書ノートの活用 「めざせ！１００冊読書マラソン」運動
- ③学校図書館を「学習・情報センター」「読書センター」として活用

(8) 校種間連携・接続の推進

- ① 「生き方探究パスポート」の活用による、学習状況やキャリア形成についての見通しや振り返りの促し、幼稚園から高等学校までの系統的な指導
- ② よりよい人生や社会を創造していくために努力する態度や意欲を培うことができるようキャリア教育の充実
- ③ 架け橋プログラムの推進による保幼小の連携

(9) 学力向上部の提案を生かした、学力向上の取組

- ① 教職員のめざすべき姿
- ② 児童のめざすべき姿

豊かな心

(1) 「公共の精神」に基づく態度を育む：組織的に取り組む規範意識の育成

- ① 児童一人一人を大切にする学級経営、支え合い高め合う集団づくり
- ② 学習規律の確立、学習集団の形成
- ③ 基本的生活習慣の確立、家庭との連携
- ④ 「学校いじめの防止等基本方針」に基づく「手遅れのない対応」「心の通った指導」の徹底
「いじめ」をしない、許さない、見逃さないことの徹底
- ⑤ 一人一台の端末の安全に安心して活用できるよう、情報モラル学習の系統的指導、情報セキュリティの遵守

(2) 人権尊重の精神と態度の育成

- ① 「いのちの日」、人権集会等の取組、一人一人が大切にされる教育活動
- ② 「いのちの日 人権学習だより」による啓発

(3) 主体的、自発的な行動ができる児童の育成

- ① 学級指導、代表委員会、児童会、クラブ活動、委員会活動を通して育成
- ② たてわり活動の推進

(4) 「生徒指導の実践上の4つの視点」(「自己存在の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」)を生かした、「支える生徒指導」の推進

健やかな体

(1) 新型コロナウイルス等の感染症拡大防止対策の実施、自ら判断する行動力、実践力

(2) 運動やスポーツの実践と体力の向上

- ① 達成感や成就感を味わい、生涯体育・生涯スポーツにつながる取組の実践
- ② ジャンプアッププロジェクトに基づく運動の機会の創出

(3) 保健教育の充実

- ① 望ましい生活習慣をつけようとする児童の育成と保護者への働きかけ
- ② けがや病気の原因、予防法を正しく理解し、実践できる力の育成
- ③ 薬物乱用防止教室の継続 教職員の指導力・子どもの自己指導力の向上
「薬物乱用防止教育スタンダード」の活用

④ 家庭・地域・関係機関との連携

(4) 安全教育

- ① 「生活安全」「交通安全」「防災安全」の意識をもつ児童の育成
- ② 危険を予測し、適切に行動できる力の育成
- ③ 危険に際して主体的に行動し、支援者となる力の育成

(5) 食に関する指導の充実

- ① 学校における新しい生活様式を踏まえ、和やかな雰囲気の中で、みんなと一緒に食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちの育成
- ② 様々な経験を通じて「食」に関する知識と望ましい「食」を選択する能力を習得し、健全な食生活を実践する児童の育成

〈新しい学習指導要領で育成を目指す「資質・能力の三つの柱」〉

